



木産協だより【3月号】 ウッド・チェンジ (木づかいが森をよくする暮らしを変える)

や ま が た

YAMAGATA モクレポ

【年度末を迎えて】木産協：理事長からの「緊急メッセージ」

【急激に変化する各種法改正を踏まえて】 (木産・利セ)



【法改正①】2025年4月からの【改正建築基準法】(4号特例縮小等)の施行を踏まえて

「地域材の生産・販売・流通」を担う「木産協」として難しい対応が求められています。

木産協(利用センター)は、一般流通材を主力に「やまがたの木」や「やまがた県産集成材」など組合員の皆様が多様な建築用部材を地域工務店等に木材供給出来るよう制度をつくり、地域材の流通拡大に寄与してきたところです。しかしながら、法改正等の影響により、一定規模以上の木造施設の「構造躯体」には、品質性能の確かな JAS 材等が求められるケースも多くなると予想され、無等級材に加え一部 JAS 材等も求められる場合もあると想定しています。今後とも、各種補助(支援)制度や木材関連情報の提供等行いながら、組合員の皆様のご支援を考えています。

【法改正②】2025年4月からの【改正クリーン・ウッド法】の施行により、

【合法木材】の流通における【合法性の確認】が義務化されたところです。「木産協」においては、組合員の皆様に、各種セミナー等で改正法の周知を図ってきたところです。今後、「改正法」に基づく対応が求められることになっていますが、原材料情報の収集・合法性の確認【記録の作成・保存】木材関連事業者への情報の伝達が必要になります。

木産協としては、林野庁からの情報提供と併せて、皆様が業務上【参考】にいただけるよう、ポイントのみを記載した【改正クリーン・ウッド法関連参考資料】を作成しましたので、【組合員】の皆様へ送付いたします。

【祝】(株)アイタ工業製材工場：第1回「日本製材技術賞」審査員特別賞受賞

「全国木材組合連合会」が主催する「日本製材技術賞」の受賞者が1月24日に公表されました。工場の生産性や独自性等様々な生産技術を評価し表彰するもので、農林水産大臣賞を始め、全国で10工場が選定されました。本組合からは、広葉樹材の高度な生産技術を有し地域のモデル工場となる「(株)アイタ工業製材工場」が「審査員特別賞」を受賞されました。表彰式：3月13日(木) 木材会館(東京都：新木場)



受賞理由：研究機関との熱心な取組により広葉樹製材の利用拡大に努めている点が高く評価
←(広葉樹乾燥施設)ブナ・ナラなど8種以上



【法改正対応】令和6年度「クリーンウッド法合法性確認研修」・「合法性実務研修会」【木産】

組合員の皆様の「木材関連事業者の合法性確認能力の向上」を図るため「クリーンウッド法に基づく合法性確認研修会」を12月13日に山形市内（パレスグランド）で開催しました。法改正に関連するので、他の「関連団体」、「やまがた県産木材利用センター」の会員、行政機関等にも案内して情報の共有を図ったところです。当日は、(一社)全国木材組合連合会：加藤参与を講師に迎え【①違法伐採とは何か②改正クリーンウッド法による留意点③クリーンウッド法に関する情報サイト・問い合わせ先④国産原木の合法性確認手順等】の順で説明を行い、質疑を受けたところです。

なお、法改正の詳細は林野庁のHP：クリーンウッド法に関する情報提供HP「[クリーンウッド・ナビ](#)」でご覧いただけます。



※当日は、第2部として「発電利用に供する木質バイオマスの証明のためのガイドラインの運用に関する実務」についても併せて情報提供したところです。研修に参加できなかった組合員の方で、1部・2部の説明資料等の送付を希望する方は事務局までお問合せ願います。

【利用センター：やまがたの木認証制度検討委員会 開催】

●「やまがたの木認証制度」にかかる【実施要綱】等の適正な運用を図るため毎年度実施しており、今年度は12月6日に山形市内で開催しております。今年度は、改正クリーンウッド法に対応した形で関連条文や様式を変更したもので、新たな書類等の提出を求めたりするものでなく、改正法も踏まえたこれまでと同様の【取扱い】をお願いするものです。



「販売管理票」の（記載上の注意）の箇所の様式が変更になっています。事業実施前に利用セHPを確認願います。

<https://www.yamagata-e-ie.jp/download/>

【資源循環情報】① 【木産協】「山形県森林資源生産協議会」セミナー開催（参加者：会員約20名）

会員相互の親睦・情報交換と技術研修を目的に、「第1回目のセミナー」を、1月29日に山形市（山形グランドホテル）で開催しました。講師には、県森と緑の推進機構の片桐参事をお招きして、林業労働力支援の様々なカリキュラムや、機械のリース制度等の情報提供をして頂きました。

更に、緊迫する【東北地域における木材需要動向】などについて、(株)協和木材新庄工場：矢口工場長から情報提供をいただき、その後、その状況を踏まえて、今後の原木生産拡大に向けた意見交換を行いました。



【資源循環情報】② 【若手会員企画】第2回森林資源循環利用セミナー開催（参加者：会員約20名）

若手林業技術者の育成を狙いとした【第2回セミナー】を、2月13日に山形市（山形グランドホテル）にて開催しました。

第1部は、県森林ノミクス推進課：笠井森林経営・再造林推進主幹を講師に迎え、「やまがた森林ノミクス加速化ビジョン」の実現に向けて」と題して講演を頂きました。

第2部は、東北森林管理局：安食資源活用課長を講師に迎え、【近い将来の国産材の需給動向と国有林の役割について】と題して講演を頂きました。

今後の原木生産拡大のヒントとなる内容で、国・県と連携した現場サイドの取り組みの加速化に繋がる内容でした。更に、若手会員と国や県の幹部の方との直接の意見交換を行うことが出来、会員のモチベーションアップに繋げることが出来ました。

（国・県の幹部によるご講演）



【特集】令和6年度やまがた木造設計マイスター養成講座（実施状況報告②）（利セ）

【木造建築の応援団の育成】⇒【テーマ：設計演習を通じて身につける【中大規模木造建築の思考法】

●引き続き「養成講座」の様子についてご紹介します。10月以降は、開催テーマのとおり設計演習を2日、木造施設視察を1日、防耐火と省エネの講座を1日開催しております。12月14日に閉校式が行われ一級建築士（23名）が新たにマイスターとして認定されました。
 （5年度認定者を含め全47名の方がマイスターに登録：名簿の連絡先に木造建築物の設計相談が可能です）



省エネや防耐火の第1人者（プロ講義）



【木造設計の貴重な体験：成果品は利用センターのHPに掲載】



↑【木造施設の見学】

↓【地域製材工場の見学】
（おきたま木材乾燥センター）



県のHPに登録者の名簿が掲載されています。「やまがた木造設計マイスター」の概要及び認定者名簿等は【県の「森林のミクス推進課」のHP】こちらをご覧ください

⇒ <https://www.pref.yamagata.jp/140023/shinrin/mokuzousekei.html>

東京都の展示会：【①モクコレ】【②モクション】で本県の広葉樹材の魅力発信

木産協「山形県広葉樹利用拡大協議会」では、山形県の広葉樹製材を活用した木製品を展示・PRすることで、豊かな広葉樹資源に囲まれた木の国やまがたの魅力を全国に情報発信するため、毎年度、標記2大展示会に出展しております。今年度は、山形市の「(有)アイタ材木店」様、米沢市の「(株)アイタ工業」様からご協力をいただきました。

山形県の広葉樹材のPRを全国に情報発信することができました。（ありがとうございました）

①ウッドコレクション2024 plus（東京ビックサイト西ホール）：2024年12月19日～20日開催

・全国各地の地域材を活用した建材や家具等の木製品の展示・商談会（全国38都道府県から約280社参加）

②国産材の魅力発信拠点：モクション（東京都：新宿パークタワービル5F）：2025年1月16日～28日開催

・木の国やまがたの魅力展として開催：テーマ 彩豊かな広葉樹に囲まれた「やまがたの木のある暮らし」



モクコレ



モクコレ



モクション

【アイタ材木店】耳付き広葉樹板・広葉樹（積木・シャープペン、イス・テーブル（セット））など
 【アイタ工業】広葉樹（まな板、カッティングボード、オーバル皿）・広葉樹フローリング など

県産木材「やまがたの木」認定事業者講習会

やまがたの木認定事業者の【認定証】の有効期限は3年間となっています。そのため、毎年度更新のための技術講習会を開催しています。

今年度は20社程度の更新事業者の皆様から受講していただき、分別管理の手法や「販売管理票」の記載方法等について改めて確認していただきました。

（12月3日山形市協同の杜JA研修所で開催）⇒



【速報】7年度の県産認証材

「やまの木」普及・利用促進事業

① 一般住宅補助（施主：25万円）

160棟（6年度より+10棟）

② 民間施設補助（施主：50万円）

15棟（JAS材使用要件が10%に緩和されました）

詳しくは



「むらやま森林ノミクスシンポジウム」開催（1/31）

「村山地域林業振興協議会」と「西山杉利活用推進コンソーシアム」が主催し、木産協と利用センターが共催して開催する【標記シンポジウム】が、山形市のビックウングで開催されました。『森と社会のつながり』を踏まえ、未来のために、地域産木材の使い方とその価値を一緒に考えてみませんか？』をテーマに2部構成で開催されました。

【第1部】の基調講演は、法政大学デザイン工学部建築学科教授の網野禎昭氏を講師に迎え、「ヨーロッパの木造建築から学ぶ山と社会のつながり」と題して講演をいただきました。森と社会と木造建築の関係を見直し、地域の林業と製材業が協力して「新しい木の使い方」を実現しようと提案がありました。【第2部】のトークセッションは、「暮らしの中の木材利用を考える」をテーマに、ファシリテーターに（NPO 法人木の家だいきの会代表理事）の鈴木進氏を向け、当組合の安部副理事長（株山形城南木材市場）がパネラーとして参加して行われました。地域材を活用した民間施設の県内外の優良事例の紹介と併せて、本県の地域材を主体とした木造建築の可能性について、積極的な意見交換・提案がなされました。



「改正建築基準の施行」を踏まえた建築用部材の供給に関するセミナー開催【法改正対応】（1/23）

構造計算が必要となる木造建築物へのJAS材等のニーズが高まると見込まれており、地域の製材工場や、工務店・建築士等を対象にして、無等級材に加え「JAS 構造材」も含めた木材供給のあり方について検討するセミナー（講師：株森未来 向井千勝（ちかつ）氏）を山形市で開催しました。

テーマ【4号特例見直しで木質構造材はどう変わるのか】とし、法改正後の建築用部材の今後の動向も含めて説明がありました。製材業界の皆様への継続した情報提供や、工場間の連携の必要性などの提案もありました。

【資料等の送付希望の方は木産協まで連絡願います】



（参加者：関係者約80名）

発刊：山形県木材産業協同組合

〒990-2473 山形市松栄 1-5-41
TEL.023-666-4800 FAX.023-646-8699
URL:<https://www.mokusankyo.jp>

令和7年度4月以降の

（木産協・利用センター）の行事（予定）

- 【木産協：役員会】4月24日（木）14：30～
会場：山形市産業創造支援センター
- 【利用センター役員会】5月13日（火）13：30～
会場：山形市産業創造支援センター
- 【木産協：通常総会】5月22日（木）15：00～
会場：山形テルサ（アプローズ）
- 【利用センター：通常総会】6月3日（火）
13：30～ 会場：山形テルサ（アプローズ）

※なお、4月～5月にかけて【各種補助事業等の説明会や意見交換会】を開催予定：準備が出来次第ご案内いたします。

（お知らせ）

林野庁 HP に「モクレポ～林産物に関するマンスリーレポート～（3月号）」が公表されました。

○適正な木材価格の形成に向けた意見交換の実施

○大阪・関西万博「日本館」完成など特集

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/toukei/monthlyreport.html>

【お知らせ】プレカット協会から資金提供（お礼）

山形県プレカット協会が主体になって「災害救助法に基づく応急仮設住宅」への木質部材の提供が行われました。鮭川村・戸沢村の被災者向けの仮設住宅建築への、県産木材の至急の供給となっており、【木材業界】の総力を挙げて取組んで頂きました。

その部材費の一部は「木産協」の活動経費として資金提供をいただきました。（株山形城南木材市場の安部社長が窓口）

【お知らせ】「木産協だより」で情報提供してきた【県内住宅着工情報】は今年度から木産協のHPに掲載しています。（掲載中）